

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度発生予察技術情報第11号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

---

## 平成22年度技術情報第11号

7月下旬のヒノキ球果での調査で果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）が多く確認された。今後、新成虫の増加に伴い、ヒノキ樹から離脱して局地的に果樹園へ飛来し、加害する恐れがあるので、注意が必要である。

### 1 対象作物 カンキツ、ナシ、カキ等

### 2 情報の根拠

- (1) ヒノキ球果における寄生状況調査では、全ての地点で成・幼虫が確認され、ツヤアオカメムシが8.8頭/地点（うち、幼虫7.1頭）、チャバネアオカメムシが13.9頭/地点（うち、幼虫8.4頭）と、前年に比べて幼虫の密度が高い（表1）。
- (2) 老齢幼虫が全ての地点で確認され、新成虫がすでに発生している可能性が高い（図1）。
- (3) 本年のヒノキ球果量は中程度で前年より多いため、寄生虫数は今後とも増加すると予想される。
- (4) カメムシ類は、口針鞘数（吸汁痕数）が約25本/果を越えるとヒノキの樹上から離脱する。7月下旬の平均口針鞘数は1.3本/果（前年2.8）で、7月上旬の0.1本/果（前年0.2）よりも増加している（表1）。
- (5) 県内5か所の予察灯での誘殺数は、これまでのところ少ないが、今後、新成虫の増加に伴い、ヒノキ樹から離脱して局地的に果樹園へ飛来する可能性がある。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。
- (2) 山林（ヒノキ、スギ）に近い果樹園ほど飛来が多くなる傾向があり、特に、防風樹としてヒノキ樹を植栽している園地では注意する。
- (3) 飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の発生を助長するので散布後の発生に注意する。
- (4) 黄色蛍光灯（波長500～600nm）を集団点灯するとチャバネアオカメムシへの飛来防止効果が高い。
- (5) 果実への袋かけや防虫網（網目：4mm）の被覆は、被害を軽減できる。ただし、果実が肥大すると、袋掛けした果実も被害を受けやすくなるので注意する。

<参考資料>

表1 ヒノキ球果でのカメムシ類寄生状況及び口針鞘数（7月下旬調査）<sup>1)</sup>

調査場所	平成22年					平成21年				
	ツヤアオカメムシ		チャバネアオカメムシ		平均 口針鞘数	ツヤアオカメムシ		チャバネアオカメムシ		平均 口針鞘数
	幼虫 <sup>2)</sup>	成虫 <sup>2)</sup>	幼虫 <sup>2)</sup>	成虫 <sup>2)</sup>		幼虫	成虫	幼虫	成虫	
いちき串木野市1	13	0	19	1	0.7	4	0	9	12	1.2
いちき串木野市2	6	3	17	8	3.4	0	1	8	10	4.9
薩摩川内市東郷町	0	1	1	1	0.3	1	0	7	2	0.8
さつま町	0	0	11	12	1.0	0	1	15	7	3.1
阿久根市	8	7	9	4	1.4	2	1	8	8	4.6
出水市高尾野町	11	1	4	2	0.4	0	0	6	4	1.1
出水市1	3	2	2	2	2.2	1	1	5	3	10.4
出水市2	31	3	13	1	3.7	-	-	-	-	-
出水市3	6	1	12	12	1.5	0	0	4	9	0.4
霧島市溝辺町	1	1	6	8	0.4	2	2	5	2	0.4
垂水市	5	0	2	5	0.6	4	1	6	11	3.7
南さつま市加世田	1	1	5	10	0.6	0	0	5	3	0.3
平均	7.1	1.7	8.4	5.5	1.3	1.2	0.6	6.5	5.9	2.8

注) 1. 調査は、平成22年が7月20日～21日、平成21年が7月22～23日に実施した。  
 2. 調査方法は、1地点で10ヶ所を選定し、防虫網によりそれぞれ5回振るい落とした。

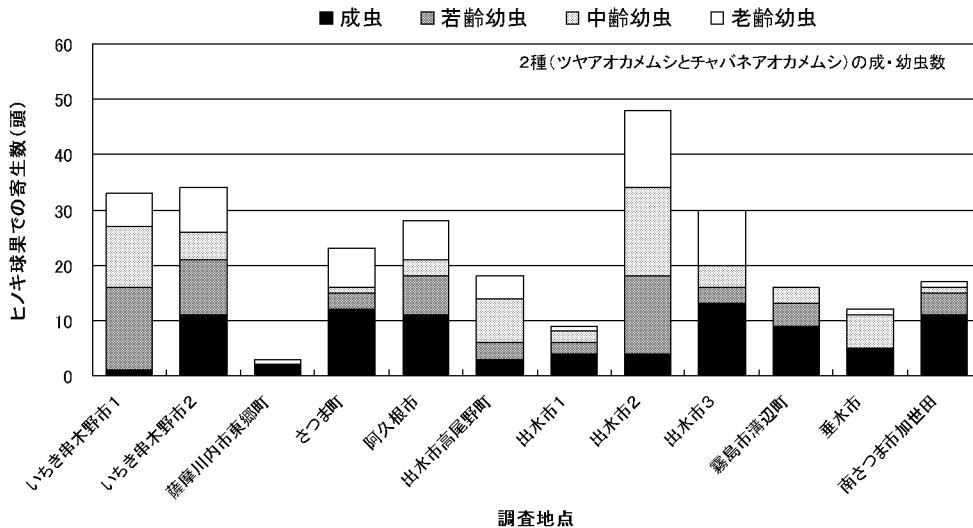


図1 ヒノキ球果上でのカメムシ類（2種計）の寄生虫数（平成22年7月下旬調査）

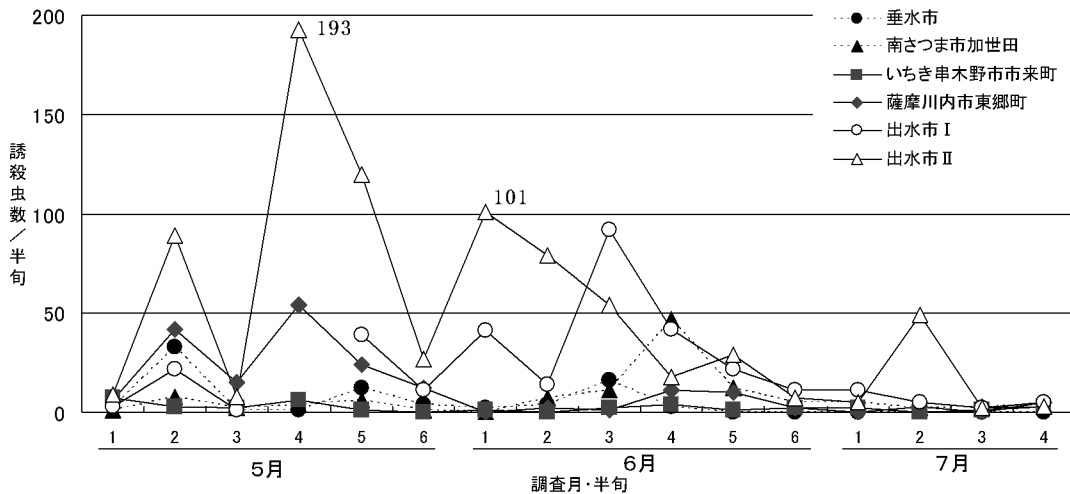


図2 予察灯におけるカメムシ類（2種計）の誘殺状況（平成22年）